

第2回 渡良瀬川大規模氾濫に関する減災対策協議会

議事概要

- ・実施日：平成28年7月1日（金）15:00～15:50
- ・場 所：ニューミヤコホテル足利本館3F丹頂の間
- ・出席者：国土交通省渡良瀬川河川事務所長、気象庁宇都宮地方気象台長、気象庁前橋地方気象台長（代理）、独立行政法人水資源機構草木ダム管理所長、栃木県河川課長、群馬県危機管理室長、群馬県河川課長、足利市長、栃木市長（代理）、佐野市長、桐生市長、太田市長（代理）、館林市長（代理）、板倉町長、邑楽町長（代理）

○開催状況



○協議会内容

- ・規約の改定
- ・減災対策協議会に関する現在までの動向
- ・渡良瀬川の減災に係る取組方針（案）
- ・減災対策協議会に関するスケジュール（案）

○協議会結果

規約の改定、渡良瀬川の減災に係る取組方針（案）、減災対策協議会に関するスケジュール（案）について了承を得られた。

○意見等

- ・取り組んでいく上で、市町の連携が重要となってくる。これをよい機会として市町の連携を強めていきたいと思う。
- ・国にはハード対策を確実に対応して欲しい。また、市町としてはソフト面での対応を今後進めていきたい。
- ・この減災対策協議会で色々な課題がわかったので、今後取り組みを進めていきたいと思う。国には無堤区間の整備を進めて欲しい。

- ・ 今後も、こういった協議の場を増やして欲しい。
- ・ わかりやすい資料となっておりありがたい。今後、取り組みを行う上で発生する課題について、このような場で相談していきたい。
- ・ 防災対策は人命の尊重が最も大事と考え、特に避難訓練に力を入れている。情報伝達訓練は、できるだけ短い時間で、全ての住民に情報が伝わるように努力している。また、小学校においても水防学校という名称で7年前から防災教育を実施しており、防災ステーションに子供たちを集め、川の役割を教えるということを、関係機関等の支援を受けて行っている。
- ・ この減災対策協議会でいろいろな課題が見えてきた。タイムラインの作成や住民への周知が大事だと思う。避難情報を住民に周知し、実際に住民が避難行動に移るということが重要と考えている。
- ・ 鬼怒川の災害は被害の規模が大きく、住民の避難や被災した堤防等の応急復旧が非常に重要と感じた。
- ・ 直轄区間と同様に、県管理区間についても現在浸水想定区域図を作成中である。そのため、資料の提供やアドバイス等をお願いしたい。
- ・ 大きい洪水に対して、効率的にダム操作を行うことで少しでも下流の住民の避難時間を確保できるような検討を行っていきたいと考えている。また、下流住民に対する情報提供も随時行っていききたい。
- ・ 課題等が非常に良く取り纏められている。その様々な課題がある中で、各機関が横断的に取り組んでいくことが重要と思う。防災教育についても各機関が連携して行うことが必要である。また、取組方針（案）には多くの取組が示されているが、なかなか全てを実施するという事は難しいので、取組内容に優先度をつける必要があるのではないか。